

人形劇の名舞台を振り返る

Play Back the Stage



2004 パネル劇場ばねるっば『ト・ト・イレ』
作：関稚子、美術：杉山範子
※写真は2024年撮影



2013 ヨシダ人形劇『はむにょ!』
作・演出：吉田貴志、音楽：本田真輔（人形劇団京芸）
※写真はホームページより

酒井利幸（手風琴）



2024 枚方人形劇連絡会合同劇団 劇団35『ひびけ! まつり太鼓』
脚本・演出：清水正年（人形劇団京芸）

私は、現在はパネルシアター中心の活動をしています、元々は大学、社会人の人形劇サークルの一員として人形劇を演じていました。転機は1998年、関稚子先生（パネル劇場ばねるっば）のワークショップを受講して、パネルシアターに魅了されました。以降、関先生に継続的ご指導をいただき、パネルシアター作品の創作・上演に活動の中心を移していくことになりました。関先生の作品の名舞台はいくつもあるのですが、その中で2004年に“パネルシアター5人会”で、会場と一体となって盛り上がった『ト・ト・イレ』が大変印象に残っています。上演活動をする中で、各地の人形劇フェスティバルに参加する機会に恵まれ、色々な劇人の方と出会い、たくさんのお芝居を拝見することができました。その中で、心に残った名舞台を紹介します。まずは、2013年に観劇したヨシダ人形劇の『はむにょ!』です。レストランにやってきたお客さんが、つぎつぎと出されるごちそうを言葉もなくパクパクとたいらげる人形劇ですが、食べ方があまりにもリアル。どんどん加速するお話は、幼児から大人まで無条件に楽しめます。

次は、2024年に観劇した劇団35の『ひびけ! まつり太鼓』です。これは、ひらかた人形劇フェスティバル35周年記念として枚方人形劇連絡会の加盟劇団の方々が集まり、熱意をぶつけ合い製作した作品です。関西弁の可笑しさを取り入れた大作で、まつり太鼓のひびきは私の胸を揺さぶりました。

愛知人形劇センター2025年度ラインナップ

公演事業

県下アマチュア劇団合同制作・人形劇団ひつまぶし
新作お披露目公演
『ぼくにもやらせて!』
7月13日（日）14:00
前売600円 当日700円（3歳以上有料）

KOYOマイムライブ! エンドレスサマーベスト

9月2日（火）19:00・9月3日（水）19:00
前売3,000円 当日3,500円 ※3歳以上有料

PUPPET SLAM in AICHI

10月11日（土）～12日（日）

子どもアートフェスティバル2025

10月11日（土）～12日（日）〈予定〉
1DAYパスポート 1,000円 2DAYパスポート 1,500円

P新人賞NEXT2025 THE STAGE

2026年2月14日（土）～15日（日）
前売2,200円 当日2,500円
センター会員2,000円（事前申込に限る）

日本演出者協会中部ブロック・愛知人形劇センター共同主催

木村繁追悼企画

2026年3月13日（金）～3月15日（日）

共催企画

名古屋腹話術クラブ公演

第32回とびきり楽しい腹話術
「人形は君のともだちだ!」——6月8日（日）

はぐはぐ☆カンパニー公演 街角の童話（メルヘン）

7月3日（木）～6日（日）

亜細亜の骨公演 影絵芝居「鯨生～Geio～」

9月13日（土）

オレンジスタ公演

アラカルト公演

「回転寿司二皿目、次なにいく?」——12月20日（土）～22日（月）

※会場はすべて、損保ジャパン人形劇場ひまわりホール

人形劇サポート事業

- SOMPOケア施設への人形劇出張公演
- 能登半島地震被災地支援人形劇公演

育成事業

- 文化庁文化芸術振興費補助金
- 芸術家等人材育成事業
- 文化庁文化芸術振興費補助金芸術家等人材育成事業
P新人賞NEXT2025

発信事業

- 機関紙「あぶ」年3～4回発行

Aichi Puppetry Center

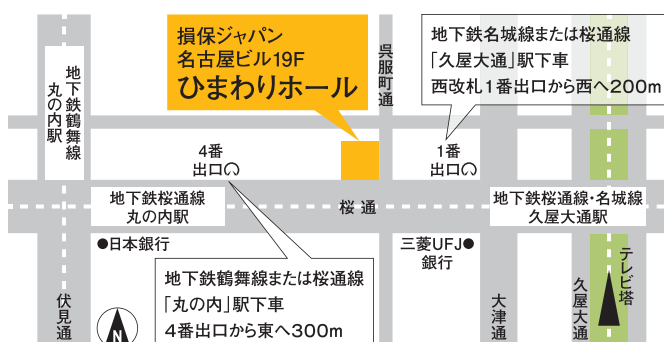
Information

通常総会のご案内

特定非営利活動法人愛知人形劇センター
定款第5章第24、25条に基づき、
下記のように令和7年度通常総会を開催します。

日時：2025年5月12日（月）18:30～20:00
会場：損保ジャパン人形劇場ひまわりホール
内容：令和6年度事業報告及び決算報告、
令和7年度事業計画及び予算等。

※平日夜間開催です。ご注意ください。
※欠席の方も総会の様子はオンラインにて視聴
可能です。詳しくは通常総会のご案内をご覧ください。



特定非営利活動法人

愛知人形劇センター

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-21

損保ジャパン名古屋ビル8F

TEL 052-212-7229 FAX 052-212-7309

https://aichi-puppet.net/ MAIL:mail@aichi-puppet.net

愛知人形劇センター
ひまわりホール情報誌

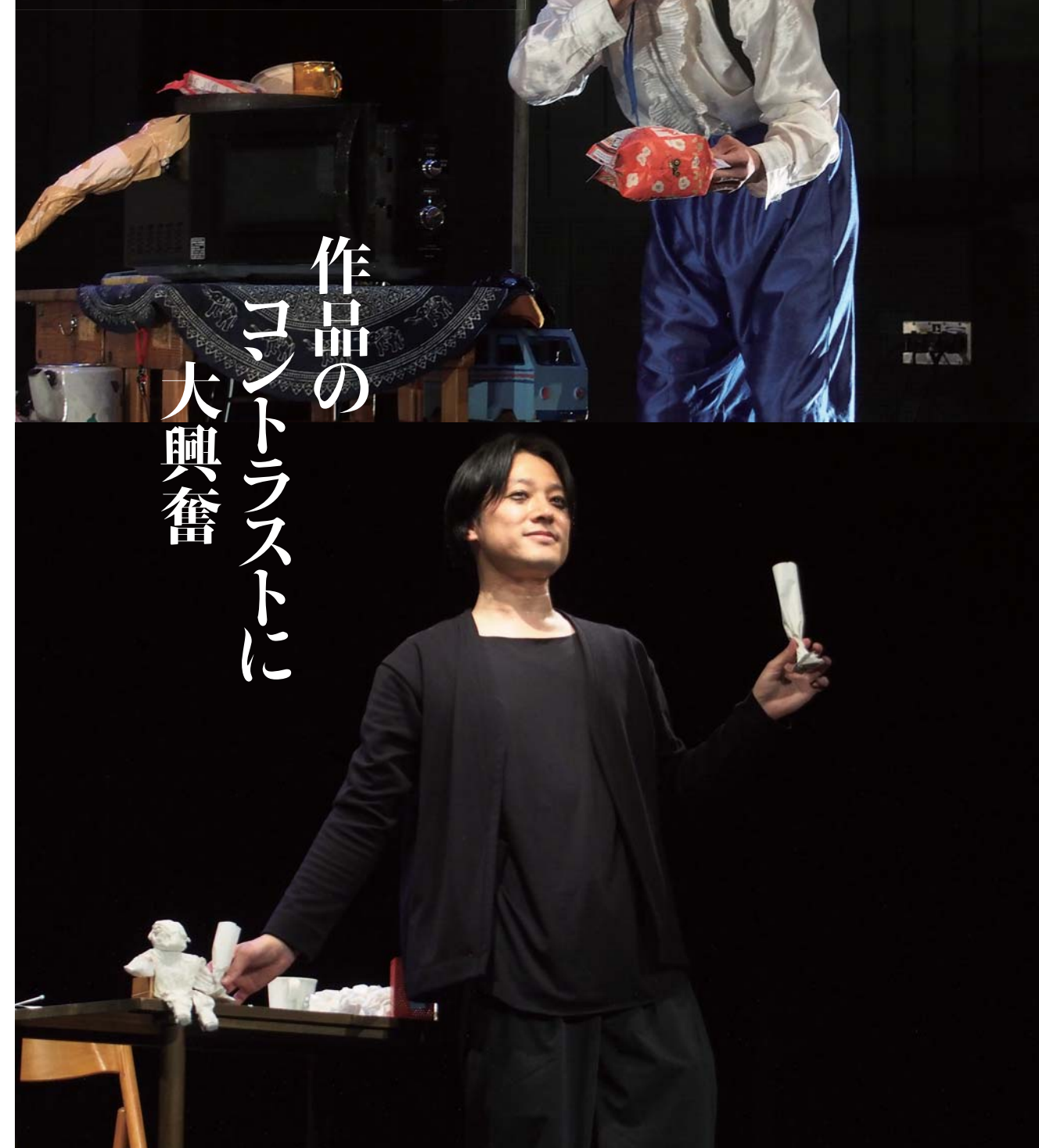
あぶ

©愛知人形劇センター ※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。

通巻328 2025年春号
発行：特定非営利活動法人 愛知人形劇センター
発行人：高橋一元
編集人：中康彦
デザイン：江利山浩二（KINGS ROAD）
編集：小島祐未子（家鴨の羅敷舎）

あぶ

Aichi Puppetry Center
ひまわりホールから
発信する
シアター情報誌



P新人賞NEXT THE STAGE 2024より
劇団野らぼう「72歳人形」（作・出演：前田斜め、演出：前田斜め／クリエイションチーム） 写真上
角谷将視（ゼロコ）「まるめた紙」（出演：角谷将視、作・演出：角谷将視／濱口啓介） 写真下

2025 SPRING
VOL. 328

https://aichi-puppet.net/



P新人賞NEXT2024 THE STAGE

2025年2月15日・16日
損保ジャパン人形劇場ひまわりホール

Report

選出された2組の作品上演会をもって P新人賞NEXT2024が華やかに終幕

昨年度から「P新人賞NEXT」として新展開を迎えた人材育成事業が、成果発表の場となる「P新人賞NEXT2024 THE STAGE」をもって全行程を終了しました。人形劇やオブジェクト・パフォーマンスなどの分野ですでに活躍しているアーティストがアドバイザーとなり、公募で選出された新進気鋭2組の創作に寄り添ってきたこの企画。コントラスト豊かな競演となった2作の一人芝居はもちろん、P新人賞NEXTを体験した感想やクロストークの様子をお伝えします。

2回目の開催となる「P新人賞NEXT2024 THE STAGE」が2025年2月15・16日に行われました。応募8作品から今回上演に選出されたのは、劇団野らぼう『72歳人形』と角谷将視（ゼロコ）『まるめた紙』の2作品。いずれも一人芝居での上演が選出されました。P新人賞2020受賞歴もある劇団野らぼうは、演出の前田斜めさんが自身の72歳の姿を模した人形と対峙する新作を創作しました。創作過程では、作品の主題や展開から人形の造形までアドバイザーとともにディスカッションを重ね、劇場の電子レンジやAIとの対話なども盛り込みながら、「いま・ここ」から「将来・宇宙」にまでつながりを

見出させるような作品を立ち上げました。フィジカルコメディデュオ「ゼロコ」として活動する角谷さんは、自身のソロ作品として東京・チェコ・ニューヨークの「インターナショナル・パペット・スラム」で上演した10分作品を、45分の作品にリクリエーションしました。スランプに陥った作家が、原稿用紙を丸めて作った人形遊びを通じて創作意欲を取り戻すストーリーから、セリフのないパフォーマンスで作家の人間性や作り手の根源的な創作の喜びが描き出される作品となりました。

愛知人形劇センター理事 佐和ぐりこ

角谷将視（ゼロコ）『まるめた紙』

出演…角谷将視

作・演出…角谷将視、濱口啓介



P新人賞NEXT2024を終えて

ステージを終えた2組から
コメントが届きました！



私は、バントマイムとコメディをベースにしたパフォーマンスデュオ「ゼロコ」として活動しています。P新人賞NEXTで創作・上演させていただいた『まるめた紙』という作品は「子どもの頃に感じていたパペットやフィギュアで遊んでいるときの感覚は、いったい何だったのだろう?」、「人形は自分にとってどんな存在だったのだろう?」といった問いをもとに創作に取り組んだものです。アドバイザーの方々から助言をいただきながら創作を進める中で、改めて人形を扱うことの奥深さを実感しました。人形の見せ方ひとつをとっても、マイムにおける身体の使い方や表現方法と共通する部分が多く、芸の道が多方面に通じていることを知り、非常に興味深いものでした。そして、この企画ならではの創作の過程は、とても濃密で充実したものであり、その日々の中で創作の楽しさを再確認できました。この作品が、より多くの方々に届くよう、今後も精進していきます。機会がありましたら、是非ご鑑賞ください。

角谷将視（ゼロコ）

12月にアドバイザーの皆さんと初の顔合わせ。その際に行った3つのテーマのプレストから本作の創作は始まりました。そのテーマがこちら。“新しい人形劇・72歳人形・物”それから何度かひまわりホールに足を運び、モノや人形、空間を吟味しながら、とにかくこれまでにない作品を創ろうと奔走しました。とはいえ、人形劇に関してほとんど初心者。人形の構造について、サイズの違いによる表現の違いについて、そして動かし方についてなど、本当に手取り足取り教えていただきました。人形の遣いを一朝一夕に習得することはできません。私もこれから長い時間をかけて、自分の“遣い”を育てていきたいと思っています。P新人賞NEXTは、今後の創作の展開を開くきっかけを与えてくださった機会だと思い、感謝しています。わからないことにチャレンジするのは不安ですが、それは喜びでもあります。懐かしい、舞台上のカンカンガクガクの日々！

劇団野らぼう 前田斜め

P新人賞NEXT2024 THE STAGE クロストーク開催



2月16日の様子。終演後にも関わらずたくさんの観客が立ち合い、登壇者たちの話に聞き入っていました。

クロストーク司会が感じた充実の2日間



出演者である劇団野らぼうの前田斜めさんとゼロコの角谷将視さんに、15日はアドバイザーとして人形劇団むすび座の大野正雄さんとラストオーダー・ダカンパニーのLONTOさんと昨年の出演者である宇都企画の宇都恵利花さん、16日は山内庸平さんとPuppet Theaterゆめみトランクのゆみだてさとことさんと昨年の出演者の老若男女未来学園の森悟さんが加わってのクロストークが上演後に催されました。前田さんの、アドバイザーとのやり取りから作品が生まれる過程、観客を引き込んでいく笑える導入から人形作りの工夫、電子レンジの上の石のことなど、話すほどに新しい謎を呼ぶトーク。角谷さんは、これまで上演してきた作品（私はチェコで観ました）をアドバイザーとどうやって発展させたかということや、紙の人形と俳優との関係を中心に語りました。“もの”と人間の舞台上での共存を目指した二人の出演者とアドバイザー、ゲストとのトークから、「人形劇とは?」「オブジェクト・シアターとは?」を考えさせられる刺激的な時間でした。

愛知人形劇センター理事長 たかはしいちげん